

ガーナ人難民の在留許可を求める

嘆願書への署名を！

RAFIQ が 5 年来、支援しているガーナ人男性、ヤクブ・スレマナ氏 Yakubu Sulemana (34 歳) はガーナ北部でイスラム原理主義者グループから迫害され、2013 年に日本に来日しましたが、入国管理法違反に問われ大阪入国管理局、大村入国管理センターに通算 11 ヶ月、収容されました。

収容中に難民認定申請をし、大村入国管理センターから 2014 年 3 月に仮放免されて、日本人女性と知り合い 2016 年 4 月に正式に結婚しました。

難民認定手続きでは、入管の厳格な証拠提示要求などから不認定となり、それを取り消すべく訴訟を起こしましたが先日、残念ながら高裁で棄却されてしまいました。

一方、結婚して早や 2 年 2 か月が経過し、奥様と実家からの献身的な努力でなんとか生活を維持していますが、結婚の実態（同居していることなど）に何の問題もないにもかかわらず入管は依然として在留特別許可（日本人配偶者との婚姻による在留資格）を付与していませんし、付与しないことについて合理的な説明もありません。

是非、皆様の賛同をいただき、法務大臣及び大阪入国管理局長に在留許可を求める嘆願書に署名していただきますようお願い申し上げます。

提出締め切り日 2018 年 7 月 25 日

署名送付先 〒532-0002 大阪市淀川区東三国 4 丁目 9-13 なんみんハウス

FAX : 06-6335-4440

rafiqtomodati@yahoo.co.jp (自筆署名文を写メ又はスキャンしてデータ送付)

RAFIQ (在日難民との共生ネットワーク) スレマナ君夫妻を救う有志一同

2018年7月

法務大臣殿

大阪入国管理局長殿

嘆 願 書

ガーナ人ヤクブ・スレマナ Yakubu Sulemana とめぐみ夫妻は正式に結婚して以来、既に2年以上が経過しています。結婚生活は真正なものであり、スレマナ氏の日本語や日本文化の習得努力は大いに称賛するべきものであるため、早急な在留特別許可及び日本人配偶者としての在留資格の付与を求めます。

| | |
|----|--|
| 住所 | |
| 氏名 | |